

日本各地の郷土玩具

「塚本コレクション・土人形」



●雛子車

●換葉

●手まり

1. 郷土玩具とは

郷土玩具は江戸時代後期から全国各地で作られてきたそれぞれの土地の風土を母体に生まれた庶民の玩具です。また、玩具の素材としては、日常の暮らしの中で容易に得られる土・紙・木を主体として、おが屑・わら・竹・布きれなどが使われています。

この郷土玩具または伝統玩具の多くは、安産・子育て・開運・商売繁盛・五穀豊穣・祈願など信仰に関するおもちゃとして作られています。また、出世物語・武勇伝・教訓説話・伝説にちなんだものも各地にみられます。土地柄を反映した多種多様な味わいのあるものが多いうえです。

一方、製造者の減少、後継者難という問題があります。社会や産業構造の変化に伴い、郷土玩具の需要が減少し、地域によっては、廃絶してしまったものもあります。いかに存続させるかは、郷土玩具にとって大きな課題です。

2. 『塚本コレクション』について

『塚本コレクション』は、市内の医師故塚本徳太郎氏が生前に全国各地の郷土玩具を広く収集されたものです。総点数は6,475点になります。その種類は、土人形を中心に張子などの紙製玩具、こけしなどの木製玩具、地元鴻巣の時代鴻巣雛、駄等において、氏の郷土玩具への強い愛着と熱い情熱を感じさせてくれます。鴻巣市ではこの貴重なコレクションを平成3年3月3日に一括寄贈を受けています。

「塚本コレクション」種別一覧	
総 点 数	6,475点
① 土人形	3,118点
② 土鈴	475点
③ 紙玩具他	200点
④ 首人形他	189点
⑤ 張子他	1,126点
⑥ こけし他	496点
⑦ 衣装舞他	115点
⑧ 木製玩具他	348点
⑨ 紙製玩具他	286点
⑩ 外国玩具	122点



写真1 鴻巣雛人形

3. 土人形

物を作る上で、各地で入手でき簡単・素直で扱いやすい材料といえば粘土でしょう。この原理で生まれたのが土を使ってものを作るという作業です。それが、後に土器や土偶（人の形をしたもの）さらに埴輪へと発展していくのです。

それがさらに進化したものが土人形といえるでしょう。そこには、人間の本質的願望（目的・願い・希望）が込められているだけでなく、各地の土地柄が見事に反映しています。日本の土人形は、それぞれの土地の住んでいる人々の長い生活の中から誕生したものといえるでしょう。

土人形は、江戸時代に入ると盛んに作られるようになりました。節句行事が流行し、土人形製作が全国で発達、多くの作品が生まれ、広く親しまれるようになりました。種類は、人形類（三月五月の節句の土雛、上天神、武者人形を始め、節句飾り用のものが主で、他にも達磨・福助・熊金・お多福・太鼓打ち人形・三番叟・娘・花魁・加藤清正・太閤・神功皇后・飼抱き・獅子舞・恵比須・大黒・沙汲み・相撲・三味線持ち・子守りなどが各地で作られていますが、各地の郷土色と技法が加えられ、独自の作品として生まれています。）から、さらに、動物類、箱庭道具、ままごと道具、泥面子、首人形などの土製玩具まで登場しました。また、古くからの産地のひとつとして、京都の伏見がありま



す。ここには、伏見稲荷社があり、その土産物として土人形が作られ、全国各地に広まったのではないかといわれています。郷土玩具の中核として、種類の多さ・伝統的な技法が生かされています。現在、堤土人形・伏見土人形・古賀土人形が代表的な産地となっています（日本三大土人形と呼ばれています）。

なお、土製玩具として、土人形だけでなく、土鉢など色々作られています。

4. 鴻巣市では

鴻巣市は、節句人形の産地として知られています。現在、この地域は土人形ではなく、桐材家具の産地として、そのおがくを利用した節句飾りなどの練り物玩具（桐型とも呼ばれています）が、盛んに作られています。原材料の面で全国的には土人形程には普及しませんでした。軽くて堅牢な特徴があり、彩色は赤を基本としています。「赤色」は古くから疱瘡除けの色とする俗信があり、子どもの疱瘡除けまじない玩具として各地に出荷されました。そのため、「鴻巣の赤物」とも呼ばれています。現在、天神・飼車・熊乗り金時・狸乗り金時・達磨・虎・猫・獅子頭などがあります。鴻巣市以外の練り物玩具として、石川県金沢市の練り物玩具、三重県伊勢市の練り物玩具、和歌山県御坊市の御坊人形などが知られています。

●キララ鉢（名古屋）



●ふくろう鉢（福岡）



写真2 鴻巣練人形

日本を代表する土人形

1.堤土人形（宮城県仙台市）

堤土人形は、浮世絵の立体化といわれ優雅で、また、北国らしい憂愁の美をただよわせています。西の伏見に東の堤とか、花巻土人形・相良土人形とともに東北三大土人形と呼ばれたりします。主なものに、宝舟・天神・敦盛・沙汲み・三番叟・和藤内・小野川谷風などがあります。



写真3 堤土人形

2.伏見土人形（京都府京都市）



写真4 伏見土人形

伏見土人形は、日本の土人形の中で最古の歴史をもつてゐるといわれます。伏見稻荷の参道で土産物として売られ、高級な御所人形などと比べ、大衆的な点が特徴です。主なものに、布袋・狐・饅頭喰い・でんぼ・西行・成田屋人形・友引き人形・牛・ちょろけん・米藏などがあります。

3.古賀土人形（長崎県長崎市）

古賀土人形は、江戸時代既に開港地だったためか、異国情緒にあふれ獨創的で南国的な色彩感に特徴があります。主なものに、阿茶さん・和蘭陀さん・西洋婦人・馬乗り猿・鶏持ち猿・馬・ズッキンキャンキャン・梶笛などがあります。



写真5 古賀土人形

日本各地の



写真6 清水土人形(京都)



写真9 富山土人形



写真11



写真7 百々土人形



写真10 名古屋土人形



写真8 博多土人形



主な土人形



※地図中の青文字は写真を掲載しています。

主な土人形



写真15 八橋土人形



写真19 下川原土人形



写真16 起土人形



写真20 中野土人形



写真17 姫土人形



写真21 広見土人形



写真18 稲畠土人形



写真22 小幡土人形

5.『塚本コレクション』の土人形一覧

県名	産地の名称	個数	県名	産地の名称	個数
青森県	青森土人形	32	愛知県	犬山土人形	56
	下川原土人形	102		大口土人形	1
岩手県	花巻土人形	45		大浜土人形	21
	氣仙高田土人形	3		起土人形	73
秋田県	小坂土人形	37		乙川土人形	10
	中山土人形	36		国府土人形	3
	八橋土人形	50		瀬戸土人形	38
東北地方(1)	合計	305		名古屋土人形	247
山形県	酒田土人形	50		棚尾土人形	17
	相良土人形	129		常滑土人形	1
	下小菅土人形	11		豊橋土人形	16
	鶴岡土人形	14		扶桑土人形	4
	成島土人形	4	中部地方(2)	合計	490
宮城県	氣仙沼土人形	3	新潟県	今町土人形	22
	堤土人形	112		大浜土人形	14
東北地方(2)	合計	323		佐渡夷土人形	2
東京都	今戸土人形	66		佐渡長木土人形	1
千葉県	飯岡土人形	5		佐渡八幡土人形	1
	柏土人形	13		伝柏崎土人形	3
	芝原土人形	43		新潟土人形	2
茨城県	笠間土人形	2		山口土人形	15
栃木県	堀米土人形	42		石川県	金沢土人形
埼玉県	鴻巣練人形	106		富山県	富山土人形
	菖蒲太刀	9		長野県	立ヶ花土人形
	時代鴻巣難	3		中野土人形	64
	木型	4		山梨県	甲府土人形
練人形	(全国)	54		静岡県	静岡土人形
関東地方	合計	347		静岡県	清水土人形
岐阜県	市原土人形	73		静岡県	坊ノ谷土人形
	高山土人形	31	中部地方(3)	合計	222
	多治見土人形	21	奈良県	初瀬土人形	11
	姫土人形	57	和歌山県	和歌山土人形	7
	広見土人形	117	大阪府	大阪四天王寺土偶	2
中部地方(1)	合計	299		堺土人形	32
愛知県	旭土人形	3		住吉土人形	28

県名	産地の名称	個数	県名	産地の名称	個数
京都府	清水土人形	54	香川県	高松土人形	20
	嵯峨人形観	2	愛媛県	野田土人形	3
	伏見土人形	153	中国四国地方	合計	232
滋賀県	小幡土人形	88	福岡県	赤坂土人形	41
兵庫県	葛畠土人形	21		小倉土人形	3
	稻畠土人形	59		津屋崎土人形	34
近畿地方	合計	457		博多土人形	56
岡山県	久米土人形	19		文字ヶ関土人形	8
	里庄土人形	8		尾崎土人形	31
	津山土人形	4		能古見土人形	6
	成羽土人形	4		弓野土人形	43
	百々土人形	63	九州地方(1)	合計	222
広島県	宮ノ崎土人形	1	熊本県	熊本土人形	8
	三次土人形	27		天草土人形	7
鳥取県	北条土人形	18	宮崎県	佐土原土人形	22
	倉吉土人形	4	鹿児島県	帖佐土人形	43
	鳥取土人形	3		垂水土人形	2
	御来屋土人形	2	長崎県	古賀土人形	32
島根県	松江土人形	6	沖縄県	沖縄土人形	1
	出雲今市土人形	23	その他	土人形	106
	知井宮土人形	1	九州地方(2)	合計	221
	長浜土人形	22	全 国	総合計	3,118
高知県	高知土人形	4			



鴻巣の文化財 第5号 日本各地の郷土玩具 『塚本コレクション・土人形』

平成17年3月31日

編集 鴻巣市教育委員会

発行 鴻巣市教育委員会・鴻巣市遺跡調査会

監修 鴻巣市文化財保護委員会

参考資料

- 「郷土玩具辞典」平成9年斎藤良輔 池東京堂出版
- 「民芸の里・郷土玩具の町」昭和55年山本敏太郎 実業之日本社
- 「日本郷土玩具事典」平成5年西沢筑穂 岩崎美術社
- 「郷土人形」昭和60年埼玉会館郷土資料室第110回展示資料